

# Economic Indicators

発表日: 2021年11月30日(火)

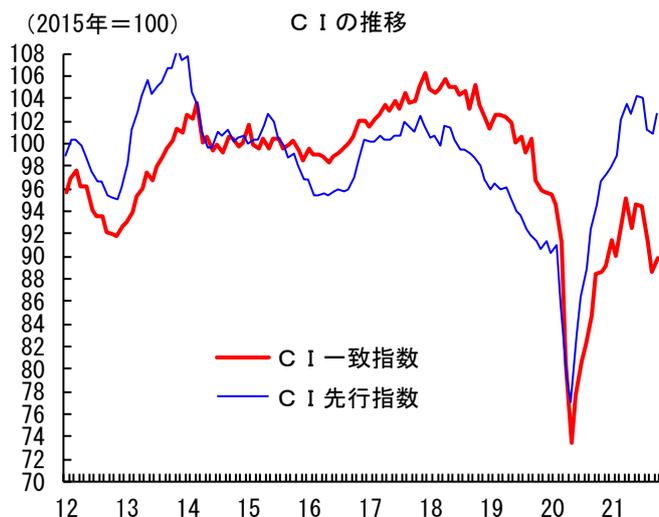
## 景気動向指数(2021年10月)の予測

～基調判断は下方修正ならず。先行きは上昇を予想も、不透明感は強い～

第一生命経済研究所 調査研究本部  
 経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴  
 (TEL: 03-5221-4528)

### C I 一致指数は4ヵ月ぶりの上昇

内閣府から12月7日に公表される2021年10月の景気動向指数では、C I 一致指数を前月差+1.2ポイントと、4ヶ月振りの上昇を予想する。8、9月と2ヵ月連続で急低下していたが、10月は小幅ながら反発が予想される。8、9月の落ち込みの主因だった自動車の大幅減産が、10月は若干和らいだことが背景にある。内訳では、耐久消費財出荷指数や生産財出荷指数、輸出数量指数など、輸出・生産関連による押し上げが目立つ形となっている。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2021年10月は第一生命経済研究所による予測値

### 基調判断は下方修正ならず

内閣府によるC I 一致指数の基調判断は「足踏み」が予想される。8月までの「改善」から9月は「足踏み」に下方修正されたが、10月もその判断が維持される見込みだ。10月は、仮に0.1ポイントでも前月差で低下していれば「下方への局面変化」へと2ヶ月連続で基調判断が下方修正されていたが、10月が前月差プラスとなったことで、下方修正の基準を満たさなかった。

なお、その先の11月についても、前月差で0.1ポイントでも低下すれば「下げ止まり」への下方修正が実現するが、11月については、生産予測指数が前月比+9.0%（経産省補正試算値：+4.2%）と、自動車の持ち直しを主因として高い伸びが見込まれているため、C I 一致指数もまとまった幅で上昇する可能性が高い。11月も基調判断の下方修正は回避されそうだ。その先についても、自動車の挽回生産の動きが続くことが押し上げ要因となることで、C I 一致指数は持ち直す可能性が高いと予想している。

もっとも、新たな変異株の出現により、こうしたメインシナリオが崩れる可能性が否定できなくなっている。重症化率や既存のワクチンの有効性など、まだ分かっていない点が多いが、今後感染が拡大し再度の行動制限強化に追い込まれる場合には、経済への悪影響は極めて大きなものとなるだろう。また、感染拡大がサプライチェーンの目詰まりを引き起こせば、再び供給制約の問題が生産活動の重しになる可能性もある。先行き不透明感は極めて強い状況だ。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。